

[成果情報名] 雨よけ施設内流水育苗ポット台使用条件下におけるイチゴ炭疽病の薬剤防除間隔

[要約] 育苗期における雨よけ施設と流水育苗ポット台を組み合わせた条件下でのイチゴ炭疽病の防除間隔は1～2週間間隔で高い効果が得られ、3週間間隔でも十分な効果が得られる。

[キーワード] イチゴ炭疽病、流水育苗ポット台、薬剤防除間隔

[担当] 長崎県農林技術開発センター・環境研究部門・病害虫研究室

[連絡先] (代表) 0957-26-3330

[区分] 野菜

[分類] 指導

[作成年度] 2014年度

[背景・ねらい]

イチゴ炭疽病に対する育苗期における雨よけ施設とチューブを用い株元に灌水できる流水育苗ポット台を組み合わせた耕種的防除法の有効性については明らかになっている(ながさき普及技術情報第31号、2013年: 下記【参考】)。この耕種的防除下においても薬剤防除は必要と考えられるが、その防除間隔は明らかでない。そこで、育苗期における雨よけ施設と流水育苗ポット台を組み合わせた条件下における防除間隔の違いによる防除効果を明らかにし、防除対策に資する。

[成果の内容・特徴]

1. 潜在感染株率は薬剤散布間隔が長くなるほど高くなるが、3週間間隔の散布でも低く抑えられる(図1、2)。

[成果の活用面・留意点]

1. 今後、輪斑病等他の病害虫を考慮した現地圃場における実証試験が必要がある。
2. 親株の感染状況等により、苗での発病が異なる可能性があるため、発病状況を絶えず観察し、薬剤防除間隔を調整する。

【参考】雨よけ施設と流水育苗ポット台を組み合わせた耕種的防除の効果

区No.	処 理		累積発病株率	萎凋枯死株率
	灌水	薬剤防除	%	%
①	チューブ	有	0	0
②	チューブ	無	27.3	0
③	頭上	有	31.8	0
④	頭上	無	63.6	9.1

- 1) 「ながさき普及技術情報第31号」のデータを抜粋
- 2) 全区とも雨よけハウス内で流水育苗ポット台を使用
- 3) 数値: 2反復平均値
- 4) 累積発病株率、萎凋枯死株率: 最終調査の数値
- 5) 薬剤防除: 試験期間(2011/8/3～9/28)中、1～2週間間隔で5回散布
- 6) その他耕種概要等は本情報の試験とほぼ同じ

[具体的データ]

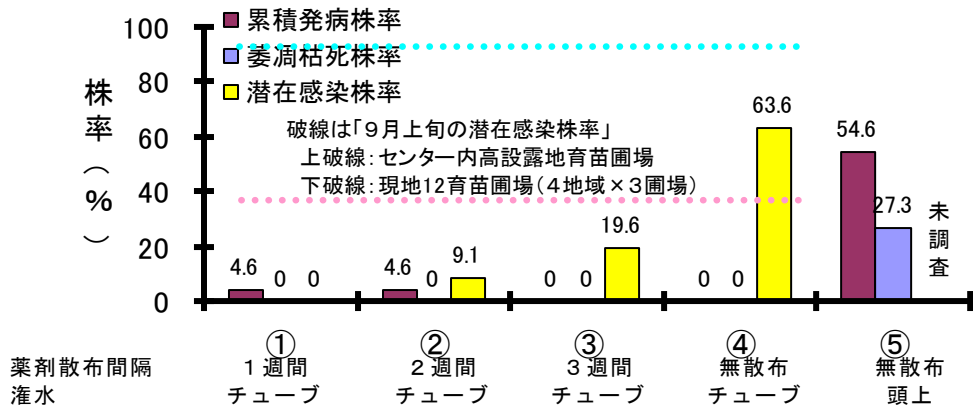


図1 薬剤散布間隔の違いによる発病の差異(2013年)

- 1) 全区ともガラス室内で流水育苗ポット台を使用
- 2) 数値: 2反復平均値
- 3) 累積発病株率、萎凋枯死株率: 最終調査(10月18日)の数値
- 4) 潜在感染株率: 10月21日採集の最下位複葉を用いたエタノール検定による数値

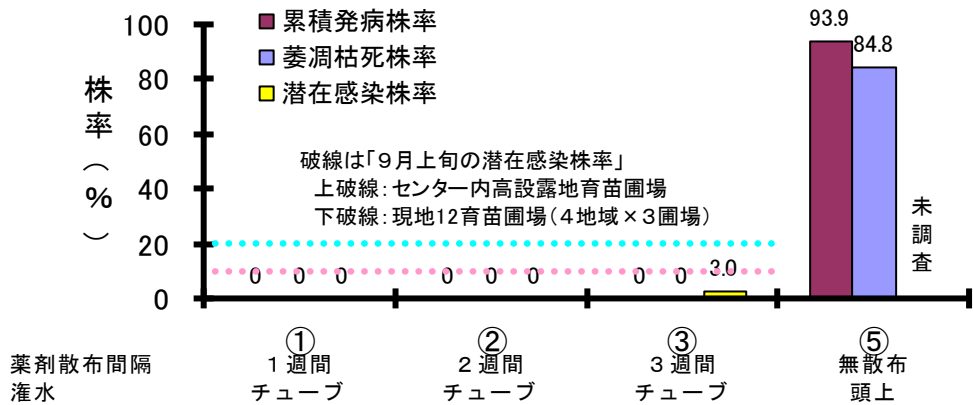


図2 薬剤散布間隔の違いによる発病の差異(2014年)

- 1) 全区ともビニルハウス内で流水育苗ポット台を使用
- 2) 数値: 3反復平均値
- 3) 累積発病株率、萎凋枯死株率: 最終調査(10月10日)の数値
- 4) 潜在感染株率: 10月2日採集の最下位複葉を用いたエタノール検定による数値

★耕種概要

- 【品種】「さちのか」 【育苗方式】9cmポット、ベンチ栽培
- 【区制】11株/区×2反復(2013)および3反復(2014)
- 【試験期間】2013年: 8月2日～10月21日
2014年: 7月16日～10月10日
- 【灌水】チューブは10分/回、頭上は手灌水
2013年: 2回/日 2014年: 1回/日
- 【摘葉】適宜、複葉3枚に調整
- 【菌接種源】発病苗を各ポット台に設置
2013年: 8月2日～30日 2014年: 7月17日～10月10日
- 【発病した供試株の除去】なし

流水育苗ポット台略図

1	2	3	4
5	×	6	7
8	9	10	11

×印に発病苗設置

数値は供試苗No.

表1 薬剤散布履歴

散布月日		区No.				
2013年	2014年	①	②	③	④	⑤
8月2日	7月16日	S	S	S	×	×
8月9日	7月23日	B	×	×	×	×
8月17日	7月31日	G	G	×	×	×
8月23日	8月6日	A	×	G	×	×
8月30日	8月13日	S	S	×	×	×
9月6日	8月19日	B	×	×	×	×
9月13日	8月27日	G	G	S	×	×
9月20日	9月4日	A	×	×	×	×
9月26日	9月10日	S	S	×	×	×
10月4日	9月17日	B	×	G	×	×

S: セイビアーフロアブル20 1000倍

B: ベルケート水和剤 1000倍

G: ゲッター水和剤 1000倍

A: アントラコール顆粒水和剤 500倍

[その他]

研究課題名: 農林業生産現場への緊急技術支援プロジェクト研究 予算区分: 県単
研究期間: 2002年度～ 研究担当者: 寺本 健・森 三紗・難波 信行